

令和元年度 第3回京都府立図書館協議会 議事要旨

1 開催日時

令和2年2月12日（水）14時から16時まで

2 場所

京都府立図書館（京都市左京区岡崎成勝寺町）

3 出席者

原田隆史委員（会長）、明致親吾委員、小川雅史委員、桂まに子委員、龜井貴子委員、永田紅委員、西亜希子委員、松下亜樹子委員、野間万里子委員

4 会議の内容

- (1) 令和元年度第2回協議会の議事録要旨について
- (2) 令和元年度取組状況について
- (3) 令和2年度事業計画（案）について
- (4) 京都府立図書館サービス計画について
- (5) その他

5 協議事項

- (1) 令和元年度第2回協議会の議事録要旨について
 - 事務局から概要について資料に基づき説明
- (2) 令和元年度取組状況について
 - 事務局から概要について資料に基づき説明
 - 委員意見
 - ・ 京都女子大学と共催の「京女サロン」は、次年度も継続していただきたい。「一箱ライブラリー」はホームページで見ることができ、学校でも参考にさせていただいている。
 - ・ 学校支援セットの活用については、利用した学校から好評である。特に4年生から6年生の利用が多いと感じる。
 - ・ 学校支援セットは、市町村立図書館でも借りることができ、図書室の中で展示するなど活用しており、子どもが図書に親しむための絶好の機会であり、より充実してほしい。
 - ・ 出前研修は、市町村立図書館の職員のニーズにあった研修である。
 - ・ 子ども食堂や子どもの居場所に取り組んでいる団体、今年度は不登校の子どもへの読書支援が始まった。
 - ・ エントランス等を展示に活用するなど、一層の工夫ができればよいのではないかと。
 - ・ 効果の上がってる取組は続けていくのは非常に良い。ただ、そのために新たなことを実施する余力がないということになると問題である。
 - ・ 貸出冊数等、府立図書館のデータだけでなく、市町村立図書館のデータも併せた京都府全体のデータをみるのが大切である。

(3) 令和2年度事業計画(案)について

○ 事務局から概要について資料に基づき説明

○ 委員意見

- ・ 出前研修は増やしていただけるということで大変喜んでいる。中級研修は実施していただきたい。
- ・ 経験年齢層別に必要な研修を実施していくことが大切だ。技術や情報が大きく変化する昨今では、ある程度経験年数のある職員にも研修の機会がないと、組織として機能しないこともある。
- ・ 研修によって資質を高めていくことは大事なことだと思うので、成果が出ることを期待している。
- ・ 連携先をより具体化するの是非常によいと思う。校長会と連携とか、組織との連携を明確にされた方が、学校側も協力しやすい。
- ・ 京セラ美術館との連携が大変楽しみである。
- ・ ホームページを改善していただけるなら、スマートフォンで見たときの見やすさというのも考えて検討いただきたい。
- ・ ホームページ改善の検討には、例えば学生を含めてのワークショップ型で検討を行うなどがいいのではないかと。協力したい。
- ・ 「見える化」で今一番効果があるのは動画ではないか。教員の立場としても、新しい図書館教材がないので、動画で図書館側から発信していただくとありがたい。
- ・ 図書館の様々な素材、例えば図書館に入って歩いて行く様子などを、動画や映画などを作る方へ提供していくことを考えてはどうか。
- ・ 市町村立図書館のデータと併せ、京都府立図書館の取組の評価指標としてはどうか。学校セット貸出や子ども食堂・フリースクールへの貸出の状況についてもデータをとって、補足、分析していく必要がある。
- ・ 外国人への対応については、どのくらいのボリュームの人に来館してほしいかなど、どのようなゴールを設定するのか検討すべきではないか。

(4) 京都府立図書館サービス計画について

○ 事務局から概要について資料に基づき説明

○ 委員意見

- ・ 「情報発信」とは何をするのかということ、何を「情報発信」したいかを時間をかけてでも検討すべきではないか。情報発信を「見える化」としてまとめると議論がしやすくなるのではないかと。
- ・ 基本方針部分と中項目の部分で同じ文言がでてくる。文章上、工夫が必要ではないか。
- ・ 障害者支援サービスについては、ユニバーサルデザイン、あるいは合理的配慮や共生社会のサービスなど、次の時代に合うような言葉にしてもいいと思う。
- ・ 合理的配慮の観点から、海外ルーツの住民や海外出身のお母さん達のサークル等への支援についてなど、障害者サービスを、もう少し広がる表現がよいのではと感じた。
- ・ 図書館まで行く人は、少なくなっているかもしれないが、古本市などは賑わっ

ている。掘り出し物への期待や文化的な雰囲気の中に足を踏み入れたいというニーズはあるのではないか。図書館にそういう部分も求められているのではないか。

- 子ども読書本のしおりコンテストは、本の紹介にしおりを取り上げる教科書がなくなっている現状である。応募者を増やすためにはより一層の工夫が必要ではないか。
- 子どもの読書活動の支援として、図書館は図書館分類法で本を整理していることの照会も参考になることから、分類の仕方などの教材を作成してダウンロードできるようにしていただきたい。
- 図書館で推薦図書を出していくのも工夫の一つではないか。

(4) 今後のスケジュールについて

次年度は、第1回を6月ごろの開催予定